

教材名：私のせいじゃない	主題名：正義の実現	内容項目： C — (11)
--------------	-----------	----------------

ねらい：「私のせいじゃない」に描かれている、泣いている子の立場に立っていじめの問題について考え、自分の弱さと向き合い、誰に対しても公正に接し、差別や偏見のない社会をつくらうとする道徳的実践意欲を培う。

	教材の話の流れ	登場人物について	授業者としての捉え
序盤	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 始まったときのこと、見ていないから、どうしてそうなったのか、ぼくは知らない。</li> <li>• 始めたのは私じゃない。ほかのみんながたたき始めたのよ。私のせいじゃないわ。</li> <li>• 大勢でたたいた。みんなたたいた。ぼくもたたいた。でも、ほんの少しだけだよ。</li> <li>• 大勢でやってたのよ。一人では止められなかった。私のせいじゃないわ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 始まったときの状況を見ていないことを理由に、被害者が泣いていることを知らない自分を正当化している <b>傍観者。（無関心よそおい型）</b></li> <li>• 始めたのは自分ではないから、自分の責任は小さいと考えている <b>傍観者。（無関心よそおい型）</b></li> <li>• 自分もたたいてはいるが、みんなもやっているし、少ししかしていないから自分の責任は小さいと考えている <b>加害者。</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 始まったときの状況を見ていないことを理由に、周りに対して無関心であったことを正当化している。</li> <li>• 始めたのは自分ではないことを理由に、傍観者であった自分を正当化している。</li> <li>• 自分もたたいてはいるが、みんなも同じようにたたいたこと、少ししかたたいていないことを理由に、自分の責任は小さいと捉えている。</li> </ul>
中盤	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 大勢でやってたのよ。一人では止められなかった。私のせいじゃないわ。</li> <li>• ぼくはこわかった。何もできなかった。見ただけだった。</li> <li>• 先生に言いつければいいのに。弱虫なのよ。私には関係ないわ。</li> <li>• 一言もしゃべらなかつた。ぼくたちを見つめていただけだった。さげばいいのに。</li> <li>• 考えることがちがうんだ。全然おもしろくないんだ。自分のせいだよ。</li> <li>• そんなことがなかったら、その子のことほとんど忘れていたわ。何にも言わないんだもの。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 止めようにも一人では無理だと諦めて行動しなかつた <b>傍観者。（自分がカワイイ型）</b></li> <li>• 自分の身を第一に考えてしまっており、何も行動できない <b>傍観者。（自分がカワイイ型）</b></li> <li>• 被害者にも落ち度があると考えている <b>傍観者。（無関心よそおい型）</b></li> <li>• 被害者にも落ち度があると考えている <b>傍観者。（知らんぶり型）</b></li> <li>• 被害者のせいにしてしている <b>加害者。</b></li> <li>• 周りに対してほとんど無関心である <b>傍観者。（無関心よそおい型）</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 大勢でやってたため一人では止められなかつたと、傍観者であった自分を正当化している。</li> <li>• 怖くて何も出来なかつた、見ていることしか出来なかつた、仕方ないといった意識が感じられる。</li> <li>• 先生に言わない弱虫な被害者が悪いのだと、被害者にも落ち度があるという意識が感じられる。</li> <li>• 見つめているだけで一言もしゃべろうとしない被害者にも落ち度があるという意識が感じられる。</li> <li>• 自分たちと考え方が違う被害者が悪いと考えている。</li> <li>• 周りに対してほとんど無関心である。</li> </ul>

終盤	・私のせいじゃない？		
----	------------	--	--

養う道徳性に関わるキーワード等（何を捉えさせたいか）

- ・傍観者もいじめに加わっている立場にある。
- ・人間には傍観者の立場になってしまう弱さもあるが、それではダメだと思う心もある。
- ・人間のもつ弱さと向き合い、勇気を出して行動することが大切である。
- ・大勢でやったからといって、一人ひとりの責任は小さくならない。
- ・人は他者との関わりで生きているのだから、誰に対しても偏見を持たないようにし、正義と公正さを重んじ、公平に接することが大切である。